

平成 30 年度高等学校生徒指導連絡協議会 報告

5月30日(水)、新潟県立教育センターを会場に「学校教育相談体制」をテーマとして、今年度の高等学校生徒指導連絡協議会を開催しました。

主な内容は以下のとおりです。

1 目的

高等学校等の生徒指導上の当面する諸課題について幅広い知識と態度および技能を身につけ、その資質や指導力の向上を図る。

2 内容

- 講義 高等学校における問題行動の現状と課題及び教育相談の有用性について
- 報告 平成 29 年度生徒指導 指導者養成研修から学んだこと
- 講演 「学校教育相談体制の構築に対する取り組み方」
講師 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 様
- 協議 生徒の悩みを受けとめるための学校の相談体制について
アドバイザー 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 様

※ 嶋崎先生の豊富な御経験と知識に裏付けされた講演は、大変、示唆に富んでおり、参加者の皆さんは熱心に聴き入ったり、ロールプレイングに参加したりしていました。嶋崎先生の講演の要旨は以下のとおりです。

- 1 生徒に対する指導には順序がある。先にプラスのアプローチ(認める・褒める)、その後、マイナスのアプローチ(指導・注意)。順序が逆だと、生徒に話が入っていかない。
- 2 これからの生徒指導に求められるものは「法」を知っておくこと。
- 3 生徒との会話で必要なことは、「聴く」ことよりも「訊く」ことである。
生徒との会話を通じた「例外探し」や「肯定的理解」によって、生徒とのつながりができる。
- 4 心理的事実の受容・共感のあとに、客観的事実の支援・指導を行うとスムーズな問題解決につながる。

